

公民的分野 年間指導計画・観点別評価規準表

章	学習内容	配当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
導入	なぜ「公民」を学ぶのか？	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去と未来の接点、家族から国際社会へと続く社会の中心に、自分＝私が存在するということを読みとらせる。</li> <li>●「公民」という言葉の概念について理解を深め、学習への意欲を高めさせる。</li> </ul>	[地理・歴史・公民の概念図] から、過去と未来の接点、家族から国際社会へと続く社会の中心に、自分がいることを確認し、公民的分野の学習への関心を高めている。	[地理・歴史・公民の概念図] で自分の立ち位置を確認することを通して、未来の社会に対する責任やよりよい社会をめざして社会に参画していくことの重要性について考察し、自分の言葉で表現している。	[地理・歴史・公民の概念図] から、過去と未来の接点、家族から国際社会へと続く社会の中心に、自分が存在することを正しく読みとっている。	公民の意味と意義について理解し、その上で、公民的分野で学ぶ内容を大まかに理解している。
	人生モノサシ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人生における各時代別の自分の立ち位置から、多面的・多角的に人生を見通し、考えさせる。</li> <li>●自分の人生をシミュレーションすることで、その背景にある社会の動きと関連させ、公民分野で学ぶ内容を理解させる。</li> </ul>	自分の人生をシミュレーションし、それぞれの時代について、設定されたテーマに基づいて、積極的に考えることができる。	自分の人生をシミュレーションする上で、それぞれの時代の自分のすがたについて、多面的・多角的にその背景にある社会の動きと関連させながら考えることができる。	自分の人生をシミュレーションしながら、設定されたテーマについてまとめることができる。	自分の人生を時代別に考え、その背景にある社会の動きを理解し、公民で学習する内容を理解することができる。
第1章 私たちの生活と現代社会	発見！ 現代社会の特色	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現代社会を四つの特色から整理して時代を概観させる。</li> <li>●日本社会は長い伝統の上に変化が生じていることを理解させる。</li> </ul>	現代社会の特色について、意欲的に分類し整理することができる。	13枚の写真をもとに4つの特色から分類し、整理することができる。	写真と吹き出しの台詞に注目して、資料を分類し整理することができる。	日本の伝統と文化の上に、グローバル化や情報化が進んでいることを理解できる。
	第1節 私から見える現代の日本社会	(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響をあたえていることに気づかせる。</li> </ul>	「私」との関係という視点から、少子高齢化、情報化、グローバル化などの現代日本社会の特色に関心を高め、それらの影響や関連性などについて意欲的に追究することができる。	少子高齢化、情報化、グローバル化などが政治、経済、国際関係にあたえている影響について、多面的・多角的に考察し適切に表現することができる。	さまざまな写真や統計資料などから、少子高齢化、情報化、グローバル化などの現代日本社会の特色や社会の変容などを適切に読み取ることができる。	現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがあり、たがいに関連し合いながら、政治、経済、国際関係に影響をあたえていることを理解できる。
	1 世界とかかわる私	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グローバル化により、国際分業と国際競争が加速していることを理解させる。</li> <li>●自国意識をしっかり持ちながら、他国と良好な関係を築けるグローバル人材の育成が求められていることに気づかせる。</li> </ul>	異なる文化との共存や国際協力の必要性が増大していることに気づくことができる。	グローバル人材であるためには、自国のアイデンティティを確認しながら他国との良好な関係を築いてゆく必要があることを説明できる。	[日本の食料自給率の推移]の資料などを読み取り、グローバル化の長所と短所についてまとめることができる。	グローバル化の進展している実態について理解することができる。
	2 情報から現代を知る私	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報社会の到来により生活が便利になる一方で、さまざまな課題が生じていることを考えさせる。</li> <li>●情報社会の中で、情報を活用する力や、情報モラルを身に付けることなどの大切さを理解させる。</li> </ul>	情報を主体的に活用する力や情報モラルなどの大切さについて、関心をもつことができる。	情報社会の便利な面と課題について考えることができる。	情報社会の実態や社会のしくみの変化のようすについて資料をもとに調べ、まとめることができる。	情報社会の便利な面と課題との関係について理解することができる。
	3 私の家庭と少子高齢化	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●少子化の進行と平均寿命の伸長による人口構造の変化に気づき、わが国の少子高齢社会の特徴について理解させる。</li> <li>●急速に進むわが国の少子高齢社会の課題を調べ、特に「育児」と「介護」等への対応について考えさせる。</li> </ul>	少子高齢化がわが国に与える影響について関心をもつことができる。	急速に進むわが国の少子高齢社会の課題を理解し、特に「育児」と「介護」等への対応について考えることができる。	少子高齢化の関係資料などから、わが国の少子高齢社会の特徴について読み取ることができる。	近年の少子化の進行と平均寿命の伸長による人口構造の変化に気づき、わが国の少子高齢社会の特徴について理解することができる。

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1章 私たちの生活と現代社会	4 家族と郷土	1	●家族の役割と重要性について考えることから、家族に対する関心を高めさせる。 ●郷土について考え、郷土愛や郷土の発展に貢献しようとする意欲を高める。	家族の役割や家族形態の変化など、家族に対する関心を高めることができる。	家族の役割や郷土の役割について、ノートにまとめて話し合うことができる。また、家族の絆について考えることができる。	親等図についてノートに整理し、親等数について説明できる。	家族の役割や家族形態の変化の実態、郷土愛について理解することができる。
	【やってみよう】 家族が生きてきた時代を調べよう	1	●高度経済成長期以降、人々の暮らしや社会の動きが急速に発展していったことを、さまざまな視点から調べさせる。 ●家族の生活史を調べることをとおして、その背景にある社会の動きとの関連を考えさせる。	祖父母や家族など、身近な人々から収集した情報をもとに、時代の変化や家族の生活史などについて、自分のテーマに基づいて調べようとするすることができる。	自分が設定したテーマを追究する過程において、その背景にある社会の動きと関連させながら考えることができる。	当時の時代背景を考慮しながら、自分が設定したテーマについてまとめることができる。	調べ学習を通して、わが国における高度経済成長期以降の社会の発展について理解することができる。
	第2節 現代社会の文化と私たちの生活	(5)	●現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、わが国の伝統と文化に関心をもち、文化の継承と創造の意義に気づかせる。	現代社会における文化の意義や影響、わが国の伝統や文化に対する興味・関心を高め、私たちの社会生活とのかかわりについて積極的に考えようとしている。	現代社会における文化の意義や影響を多面的・多角的に考察し、自らの考えを適切に表現できる。また、日本の伝統と文化について、身近な生活や、地理的分野や歴史的分野の学習内容などをもとに考察している。	地理的分野や歴史的分野の学習内容や地域に伝わる資料などを活用して、現代社会における文化の意義や影響、わが国の伝統と文化の特色などについて調べ、まとめることができる。	現代社会における文化の意義や影響について理解することができる。また、わが国の伝統と文化の特色について、その歴史的背景や地域的多様性から理解することができる。
	1 文化の意義と影響	1	●現代社会における文化の意義や影響について理解させる。 ●私たちの生活の中には、伝統的な考え方や信仰、習慣などの影響がみられることに触れ、わが国の伝統と文化に関心をもちさせる。	わが国の伝統と文化に関心をもちることができる。	わが国の伝統と文化が私たちの社会生活をより豊かにしていることについて考えることができる。	わが国の伝統と文化が、私たちの考え方や行動、社会のあり方に与えている影響について調べ、まとめることができる。	現代社会における文化の意義や影響について理解することができる。
	2 日本の伝統文化 【理解を深めよう】 日本の伝統文化	1	●伝統文化の意義や影響について理解させる。 ●日本の伝統文化の特徴について理解させ、これからの伝統文化に関心をもちさせる。	わが国の伝統文化に関心をもちることができる。	自分たちが伝統文化の守り手であると同時に創り手でもあるという意味について、考えることができる。	わが国の伝統文化について神道や仏教との関連からノートにまとめることができる。	わが国の伝統や文化が多様な生活に富み、それらが人々の生活と深く結びついて、途切れることなく受け継がれてきたことを理解できる。
	3 科学技術の発達と私たちの生活	1	●科学技術の発達によって豊かな生活を享受できるようになったことを理解させる。 ●技術革新による恩恵と課題を見つけ出し、その対応について考えさせる。	科学技術の発達をもたらす社会の変化のようすや自分たちの生活との関係について関心を持つことができる。	技術革新による恩恵と課題を見つけ出し、その対応について考えることができる。	科学技術の発達過程やそれに伴う社会の変化のようすなどについて、さまざまな資料から調べ、まとめることができる。	科学技術の発達によって豊かな生活を享受できるようになったことを理解することができる。
	4 文化の継承と創造	1	●わが国の伝統文化を継承し、そして新しい文化の創造に努めることが、私たちの生活をより豊かにすることを理解させる。 ●自国の伝統と文化を大切にすることは、他国の伝統と文化を認め、尊重することにつながることを気づかせる。	自国の伝統と文化を大切にすることは、他国の伝統と文化を認め、尊重することにつながることに気づくことができる。	わが国の伝統文化を継承し、そして新しい文化の創造に努めることが、私たちの生活をより豊かにすることに気づくことができる。	地域社会の一員としての自覚のもと、身近な地域に見られる伝統的な文化の継承について調べ、まとめることができる。	伝統文化を継承し、そして新しい文化を創造していくことの意義について理解することができる。

章	学習内容	配当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1章 私たちの生活と現代社会	【やってみよう】身近な祭りを調べてみよう	1	●身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりのなかでわが国の歴史を理解する。	身近な地域の祭りについて関心をもち、意欲的に調べようとしている。	身近な地域の祭りが地域社会や住民に与えている影響について、多面的多角的に考察している。	身近な地域の祭りや日本の主な祭りについて、様々な資料を収集し、有用な情報を選択して、図表などにまとめている。	身近な地域の祭りの歴史や意味について、わが国の文化の特徴を踏まえて理解している。
	第3節 現代社会をとらえる見方や考え方	(2)	●社会生活における物事の決定のしかた、きまりの意義について具体的に考えさせる。 ●現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」などの視点があることを、具体的な社会生活と関連づけて理解させる。	さまざまな社会集団のなかでの私のかかわり方や、物事の決定のしかた、きまりを守ることに意味などに対する関心を高め、それらを意欲的に追究することができる。	さまざまな社会集団のなかでの「対立」について、「効率」と「公正」の視点からとらえ直し、「合意」への方策を考えることができる。	身近な事例の資料をもとに、さまざまな社会集団と私のかかわりの中で、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」について話し合いを深めることができる。	現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」などの視点があることを、具体的な社会生活と関連づけて理解することができる。
	1 対立から合意へ	1	●現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の視点があることを、教科書の事例をとおして理解させる。 ●身近な学校生活における問題を取り上げ、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の視点から考えさせる。	社会生活での物事の決定の仕方について関心を持つ。	さまざまな社会集団の中での「対立」について、「効率」と「公正」の視点からとらえ直し、「合意」への方策を考えることができる。	事例の資料をもとに、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」について話し合いを深めることができる。	「対立」と「合意」、「効率」と「公正」などの視点があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解することができる。
	2 きまりの意義	1	●なぜ「きまり」がつくられるのかということや、「きまり」を守ることの意義について、事例をとおして考える。 ●きまりを守ることの意義について「権利」「義務」「責任」との関係から理解し、きまりを積極的に守ろうとする意欲を高める。	社会生活における「きまり」の意義について関心を持つ。	様々な社会生活における「きまり」の役割から、義務と責任、権利という概念について考えることができる。	社会生活における様々な「きまり」にかかわる場面の写真などをもとに、「きまり」の役割について考察を深めている。	「きまり」が社会に果たしている役割について理解することができる。
第2章 私たちの生活と政治 — 日本国憲法の基本原則 —	法の入り口	1	●民主主義の基礎に人権の尊重という考え方があり、それが法によって保障されていることに気づく。 ●法やルールについて、なぜ、そのような規定があるのか、その規定を設けた基本的な考え方や意義を理解する。	法やルールについて、なぜ、そのような規定があるのか、興味・関心を高めながら考えることができる。	自ら課題を見つけて、基本的人権の尊重という考え方があることに気づき、主体的に考えようとしている。	漫画などから基本的人権と法の関係について考察し、現代社会の課題を捉え、自ら主体的に考えようとしている。	前時、前々時の「対立から合意へ」、「きまりの意義」で学んだ知識を活用して、理解に努めようとしている。
	第1節 日本国憲法の基本原則	(8)	●日本国憲法が基本的人権の尊重、国民民主権及び平和主義を基本原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事行為について理解させる。	日本国憲法の特色について、制定の経緯との関係から意欲的に考えようとしている。また、日本国憲法への関心を高めるとともに、憲法改正の手続について意欲的に調べようとしている。	規則や法律は制定すれば十分というわけではなく、内容や趣旨などの周知や遵守する心が必要であることに気づき、自分の言葉で説明している。また、日本国憲法について制定の経緯、国民民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正などを多面的に考察している。	コラムや図表などを活用して、憲法や人権問題について自分なりの考えをまとめている。また、それらに関するテーマを設定し、収集した資料などを活用しながら、自分なりにレポートをまとめている。	日本国憲法の基本的原則である国民民主権、平和主義、基本的人権の尊重などの内容や課題について正しく理解している。また、日本国憲法について、制定の経緯、国民民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正などについて、正しく理解している。
	1 法と私たちの生活	1	●わが国は法治国家であり、憲法を頂点として法が構成されていることを理解させる。 ●法が正しく運用されるためには、他者を思いやる心が必要であることを考察させる。	法の意義や法に基づく政治の大切さについて、意欲的に探求している。	法が正しく運用されるためには、人々の法を守ろうとする心が大切であることを考察し、その過程や結果を適切に表現している。	写真や表及び収集した資料を参考にし、規則や法律の必要性についてまとめている。	わが国は法治主義の国であり、法は憲法を頂点として構成されていることを理解している。

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 私たちの生活と政治 —日本国憲法の基本原則—	2 大日本帝国憲法と日本国憲法	1	●わが国の政治が憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせる。 ●日本国憲法の成立過程を知ると同時に、基本的人権の尊重、国民主権および平和主義を基本的原則としていることについて理解させる。	二つの憲法がわが国の歴史において果たした役割について関心を深めることができる。	二つの憲法がわが国の歴史において果たした役割について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	写真や図版などから新旧の憲法を比較し、それぞれの特徴を読み取ることができる。	日本国憲法が国民主権・基本的人権の尊重・平和主義といった基本原則から成り立っていることを理解している。
	3 国民主権と天皇	1	●主権が国民にある意義について、議会制民主主義の関係から考えさせる。 ●日本国および日本国民統合の象徴としての天皇の地位と、天皇の国事行為について理解させる。	近代的な民主主義の理念と伝統的な日本の制度を調和させている憲法の内容に関心を深めている。	主権が国民にある意義について、議会制民主主義の関係から考察している。	資料や図版から、日本国憲法において、近代的な民主主義の理念である国民主権と、日本の歴史的伝統的な存在である天皇とが両立していることを読み取っている。	日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事行為について理解している。
	4 人権の歴史	1	●欧米とわが国の人権の歴史について概観させる。 ●国の伝統と人権は密接にかかわっていることを考察させる。	欧米における人権の歴史と日本における人権の歴史に関心をもち、意欲をもって学習している。	各国の人権思想の歴史について概観し、各国の伝統と人権思想が密接にかかわっていることについて考察している。	人権思想に関する歴史年表を使って、人権の歴史について正しく読み取るとともに、日本における人権の歴史について年表にまとめている。	欧米とわが国の人権の歴史について概観し、理解している。
	5 基本的人権の尊重	1	●日本国憲法の定める基本的人権の考え方と内容について、条文を確認しその概略を理解させる。 ●基本的人権の行使にあたっては、公共の福祉による制限があり、社会全体の秩序に配慮しなければならないことについて、具体的な場面をとおして考察させる。	日常生活の中で基本的人権がどのように自分たちとかわかっているか、意欲的に調べようとしている。	基本的人権の保障と公共の福祉による制限のバランスについて、具体的な場面を通して考えている。	憲法の保障する基本的人権が条文の中でどのように記述されているか、正しく読み取っている。	憲法の定める人権の内容、及び公共の福祉や国民の義務について、そのあらましを理解している。
	6 平和主義	1	●日本国憲法の平和主義の理念について、その歴史的経緯をふまえて理解させるとともに、自衛隊の役割について理解させる。 ●平和主義が日本の平和を守るだけでなく、世界の平和に貢献する考えであることに気づかせる。	自衛隊や米軍について関心をもち、平和を守るためにどのような方策がとられているのかについて意欲的に調べようとしている。	平和主義が日本の平和を守るだけでなく、世界の平和に貢献する考えであることに気づいている。	憲法の条文から、わが国のめざす平和主義のあり方を正確に読み取っている。	平和主義の理念について、その歴史的経緯をふまえて理解するとともに、自衛隊が平和を守る組織として充実している事実を理解している。
	7 平和主義と防衛	1	●わが国は、アメリカ合衆国との間に結んでいる日米安全保障条約を安全保障体制の基本としていることを、条約の内容や役割をとおして理解させる。 ●わが国の安全保障や防衛問題への関心を高めるとともに、自国の問題として主体的に考えていこうとする態度を養う。	わが国の安全保障や防衛問題に関心をもち、自国の問題として主体的に考えようとしている。	わが国の安全保障体制や防衛の課題について、条約や法の整備、具体的な事例を通して考えることができる。	わが国の安全保障や防衛問題について、日米安全保障条約や防衛関連法、新聞記事などを使って説明できる。	日米安全保障条約や有事法制の整備を通してわが国の安全保障体制の基本を理解するとともに、わが国の防衛の課題を軍事的脅威や自衛隊の海外派遣などをふまえてとらえることができる。
	8 憲法改正のしくみ	1	●憲法は他の法律などと異なり、改正にあたって高いハードルが用意されている理由について考えさせる。 ●現在の憲法改正をめぐる動向に目を向け、どのような内容が改正の対象となっているかについて関心をもちさせる。	近年の憲法改正の動きに着目し、その方向性について関心をもち調べようとしている。	憲法は他の法律などと異なり、改正にあたって高いハードルが用意されている理由について考察している。	資料や条文から、憲法の規定と現実生活の間にある解釈の違いについて読み取っている。	憲法改正の具体的な手順について理解している。

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 私たちの生活と政治 — 日本国憲法の基本原則 —	第2節 基本的人権の尊重	(7)	●人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に、具体的な活動などを通して意欲的に追究させるとともに、法の意義や法を守る心について理解させる。 ●具体的な事例を通して、日本国憲法に定められている基本的人権の種類やその内容について理解させる。	身のまわりにある基本的人権にかかわる問題を人権尊重の視点から取り上げて、日本国憲法との関連について意欲的に調べようとしている。また、人々がともに生きていける社会を築くために何ができるか考えようとしている。	社会の変化によって発生した新たな人権問題や基本的人権にかかわる課題解決について、日本国憲法をもとに考察している。また、差別のない社会を築くにはどのような手だてがあるのか、自分なりの意見を発表している。	マスコミなどで取り上げられた基本的人権に関する問題や、身近に存在する問題を発見し、それに関するテーマを設定し、収集した資料などを活用しながら、自分なりの意見をまとめている。	日本国憲法で保障されている基本的人権や社会の変化にともなって主張されてきた新たな人権について、具体例をあげて説明している。また、身のまわりに潜む差別や国際社会における人権問題などについて、どのような課題があるのか具体例をあげて説明している。
	1 自由権	1	●日本国憲法が保障する自由権の内容を理解させる。 ●精神の自由、身体の自由、経済活動の自由について、具体的な事例とおして、その意義や実際の社会における保障のあり方をとらえさせる。	自由権について身近にとらえ、生活の中に見られる自由について関心をもち、調べている。	憲法の保障する自由権について、さまざまな事例や場面を通してその意義や保障のあり方について考察している。	憲法が保障する自由権について、条文の中でどのように記述されているかを読み取っている。	憲法の保障する自由権の概要を、自分の生活と結びつけて理解している。
	2 法の下での平等 【考えよう】 男女の平等と家族の価値	1	●日本国憲法が保障する平等権の趣旨と内容を理解させる。 ●男女の平等や子どもの権利、家族の価値について、資料をもとに多面的・多角的に考えさせる。	日本国憲法が保障する平等権について、事例をもとに意欲的に追究しようとしている。また、男女の平等と家族の価値について、さまざまな視点から意欲的に考察し、その特色について発表している。	男女の平等や子どもの権利、家族の価値について気づき、自分の意見をまとめて発表している。	平等権に関する資料から法の下での平等について正しく読み取り、自分の意見をまとめている。また、コラムや図表などを活用して、男女の平等と家族の価値について自分なりの考えをまとめている。	日本国憲法が保障する平等権の趣旨と内容を理解している。また、男女の平等と家族の価値について、はきちがえることなく理解し、具体例をあげて説明している。
	3 ともに生きるために 【理解を深めよう】 「ともに生きる」ためにできること	1	●不合理な差別がどのような場で見られ、それに対しどのような手だてがとられているのかについて理解させる。 ●差別をなくし、人権が十分に保障される社会をつくらうとする意欲を高める。	差別をなくし、人権が保障される社会をつくらうとする意欲を高めている。	差別をめぐる社会的な諸問題について、憲法の保障する平等権の観点から説明している。	資料から身のまわりにある差別について調べ、まとめている。	不合理な差別がどのような場で見られ、それに対しどのような手だてがとられているのかについて理解している。
	4 社会権	1	●社会権が保障されるようになった背景をとらえるとともに、日本国憲法の保障する社会権の内容を理解させる。 ●社会権を保障することが、基本的人権を保障し、確実にすることにつながるものであることをとらえさせる。	社会権が生まれた背景を調べるとともに、身近な生活の中の「教育を受ける権利」について意欲的に調べようとしている。	社会権を保障することが、基本的人権を保障し、確実にすることにつながるものであることに気づき、自分の言葉で説明している。	社会権の必要性について「教育を受ける権利」や「労働三権」を例に具体的に調べている。	社会権が保障されるようになった背景をとらえるとともに、日本国憲法の保障する社会権の内容を理解している。
	5 参政権と請求権	1	●参政権が民主主義の中心であることに気づかせるとともに、その権利を尊重しようとする気持ちを高めさせる。 ●参政権や請求権を保障することが、基本的人権を保障し、確実にすることにつながるものであることをとらえさせる。	参政権が民主主義の中心であることを理解し、その権利を尊重しようとする意欲を高めている。	参政権や請求権を保障することが、基本的人権を保障し、確実にすることにつながることに気づき、自分の言葉で説明している。	日本の選挙権獲得の歴史の資料から、今日までの民主主義発展の意義を調べ、まとめている。	参政権や請求権を保障することが、基本的人権を保障し、確実にすることにつながるものであることを理解している。
6 新しい人権	1	●新しい権利のあらましについて知り、その意義と問題点について考えさせる。 ●身近な生活の中から新しい権利にかかわる諸問題について関心を深めさせる。	身近な生活の中から新しい権利にかかわる諸問題について意欲的に調べ、関心を深めている。	新しい権利のあらましについて知り、その意義と問題点について考察し、自分の言葉で発表している。	資料から身のまわりにある新しい権利に関係する問題点を見つけ、まとめている。	社会の変化にともなって主張されてきた新しい人権について、正しく理解している。	

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 活と政治 私たちの生	7 国際社会における人権 【理解を深めよう】 人種差別をなくすために 【理解を深めよう】 世界の人権問題	1	●人権の保障は国内だけでなく全世界的な課題であり、国際的な機関や条約などにより、その拡充が進んでいることを理解させる。 ●国際的な人権問題の解決には多くの問題点があることを知るとともに、解決に向けての意欲を高めている。	国際的な人権問題の解決には多くの問題点があることを知るとともに、解決に向けての意欲を高めている。	国際社会における人権について、さまざまな視点から考察し、自分の考えを発表している。	新聞記事などの資料から、人権をめぐる国際的な問題について読み取り、自分の言葉でまとめている。	人権の保障は国内だけでなく全世界的な課題であり、国際的な機関や条約などにより、その拡充が進んでいることを理解している。
	政治の入り口	1	●人々が社会生活を営む上で、大きな関わりをもつ「政治」の意義を知り、関心を持たせる。 ●設定されたテーマに従って、議論やディベートを行い、「政治」の働きを考えるきっかけとする。	なぜ、政治というものが必要なのかについて、興味・関心を高めている。	社会集団における意見の対立や利害関係を調整して、目的を達成するために政治があることに気づき、政治の必要性を自分の言葉で表現している。	救急車の事例に対する各党の案を読み、そこから自分なりに各党の案の長所・短所を分析し、意見を出そうとしている。	対立を合意へと導き、目的を達成することが政治の役割であることを理解している。また、政治を健全な状態に保つための三権分立の意義について理解している。
第3章 私たちの生活と政治 —民主政治と政治参加—	第1節 民主政治のしくみ	(5)	●民主政治のしくみのあらましやマスメディアの影響、考え方について理解させるとともに、主権者として政治に参加する意義について理解させる。 ●新聞記事や統計資料などを活用し、現実の政治の動きを多面的・多角的にとらえさせる。	わが国の政治や選挙制度、マスメディアの課題に関心を持ち、意欲的にそのしくみや制度、問題点について考え、まとめようとしている。また、国民の積極的な政治参加についての話し合いに意欲的に参加している。	主権者として国民が政治に参加することの意義について、身近な事例を通して考えている。また、国や地方の政治的な課題について、グループやクラスでの話し合いを行い、問題事象に対して多面的・多角的に考察している。	国や地方公共団体の政治に関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、そこから自分なりに課題を調べまとめようとしている。また、選挙のしくみに関する資料から、課題についての的確に読み取りまとめている。	民主主義の意義について、多数決の原理や直接民主主義と間接民主主義の長所と短所などと関連づけながら理解している。また、政治に参加するためのさまざまな方法や主権者として積極的に政治に参加することの意義について理解している。
	1 民主主義とは	1	●人々が社会生活を営む上で、大きなかわりをもつ「政治」の意義に関心をもたせる。 ●民主政治の形態である直接民主主義と間接民主主義のしくみと両者の特色について理解させる。	人々が社会生活を営む上で、大きなかわりをもつ「政治」の意義に関心を持ち、意欲的にそのしくみや制度をまとめようとしている。	より民意が反映されている政治を行うための方策としての、多数決の原理や少数意見の尊重について、自分なりに考察し説明している。	直接民主主義と間接民主主義の長所と短所について、資料から読み取った内容をもとにまとめている。	直接民主主義と間接民主主義のしくみと特色について、正しく理解している。
	2 政党と政治	1	●国民の意思を政治に反映させるために政党が果たす役割について理解させる。 ●わが国の政党の現状について調べ、多党制・二党制を中心とした政党の長所・短所について考えさせる。	わが国の政党に対して関心を持ち、政党の種類や、与党・野党の役割について意欲的に調べようとしている。	わが国の政党の現状について調べ、多党制・二党制を中心とした政党の長所・短所について考察し発表している。	主な政党の移り変わりの図を用いて、現在の政党の変遷について調べ、まとめている。	国民の意思を政治に反映させるために政党が果たす役割について、正しく理解している。
	3 選挙のしくみ	1	●選挙の原則と国政選挙のしくみについて理解させる。 ●現在の選挙制度の問題点や今後のあり方について考察させる。	国政選挙の制度に関心を持ち、そのしくみや議席配分の方法について意欲的に調べようとしている。	投票率の低下や一票の格差など、現在の選挙制度の問題点や今後のあり方について考察し説明している。	資料をもとに、日本の選挙制度についてその長所と短所を調べ、まとめている。	選挙の原則と国政選挙のしくみについて正しく理解している。
4 政治参加と世論	1	●民主政治を守り発展させるためには、主権者として積極的に政治に参加していくことが大切であることに気づかせ、政治学習への関心が高める。 ●マスメディアを活用する国民として良識ある判断をすることの大切さについて考えさせる。	民主政治を発展させるためには、主権者として積極的に政治に参加していくことが大切であることや、マスメディアの役割に気づき、政治学習への関心が高めている。	民主政治の質を高めるためには、国民の質を高める必要があること、それにはマスメディアの報道を客観的に把握する必要があることを、自分の言葉で説明している。	政治に参加するさまざまな方法やマスメディアの違いについて資料から読み取り、主権者としてどのような姿勢で政治に参加していくかについて、自分の意見をまとめている。	政治に参加するための方法や、積極的に政治に参加することの意義、マスメディアとメディアリテラシーについて、正しく理解している。	

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 私たちの生活と政治 —民主政治と政治参加—	【やってみよう】 新聞の社説を比べてみよう	1	●新聞などマスメディアの情報を利用するときは、さまざまな角度から批判的に読み取ること（メディアリテラシー）が重要であることを理解させる。 ●正反対の立場からの社説をもとにディベートを行い、社会事象を多面的・多角的にとらえる技能を高めさせる。	新聞をはじめとするマスメディアの役割に関心を持ち、意欲的にディベートに参加している。	自分の主張の裏づけとなる根拠について多面的・多角的に考察し、自分の言葉で発表している。	新聞記事などのマスメディアの情報を読み取る際に、複数の情報を比較するなどさまざまな角度から批判的に読み取っている。また、正反対の立場からの社説をもとにディベートを行い、社会事象を多面的・多角的にとらえる技能を高めている。	新聞などのマスメディアの情報を利用するときには、さまざまな角度から批判的に読み取ること（メディアリテラシー）が重要であることを理解している。また、ディベートの方法や流れを把握し、自分の主張とその根拠を正しく理解している。
	第2節 国民の代表機関としての国会	(2)	●国会を中心とするわが国の民主政治のしくみや政党の果たす役割と課題について理解し、議会制民主主義の充実への意欲を高める。	国権の最高機関である国会について関心高め、意欲的にそのしくみや制度をまとめている。	政党のはたらきや政党のかかえる問題について、国民の立場から公正に判断し、自分の言葉で説明している。	三権分立の図や法律の制定の図について、国民主権との関係で具体的に読み取り、まとめている。	国会のしくみやその役割、政党がもつ意義やそのはたらきについて正しく理解している。
	1 三権分立と国会のしくみ	1	●国会のしくみやそのはたらきについて理解させる。 ●二院制のもつ意義や、衆議院、参議院それぞれの機能や特色について考察させる。	国会のしくみについて関心を持ち、衆議院と参議院それぞれの機能について意欲的に調べようとしている。	衆議院と参議院の二院制をとっている理由について、わが国の政治の原則である民主主義の視点から考察している。	さまざまな資料を収集し、国会・内閣・裁判所の三つの機関がどのように関連し合っているか調べ、まとめている。	国会のしくみやその種類、仕事について正しく理解している。
	2 立法権をもつ国会	1	●国会は法律の制定以外にも多くの仕事をしていることを、憲法の規定に照らして確認させる。 ●衆議院が優越した立場にあることを国民主権の原則に関係して考えさせる。	国会のしくみや仕事の内容について関心を持ち、国会の審議の過程について意欲的に調べようとしている。	衆議院が優越した立場にあることを国民主権の原則に関係して考察し、自分の言葉で説明している。	国会での審議と衆議院の優越について、法律案などの審議の過程の図を活用しながら説明している。	国会は法律の制定以外にも多くの仕事をしていることを、憲法の規定に照らして確認し、理解している。
	第3節 行政権をもつ内閣	(2)	●内閣と国会とのかかわりや、内閣と行政機関のしくみやはたらきについて理解し、行政の課題について考えさせる。	内閣と行政機関のしくみやはたらきについて、知っていることを意欲的に発表している。	議院内閣制について国民主権とのかかわりから考察したり、行政権の肥大にともなう今日の問題についてさまざまな角度から考察している。	内閣や議院内閣制のしくみを資料から読み取り、まとめている。	内閣のしくみとそのはたらきについて、身近な知識をふまえて理解している。また、行政は国民生活の向上のために、全体の奉仕者としての公務員を通して行われていることを理解している。
	1 内閣と議院内閣制	1	●行政の最高機関としての内閣のしくみについて理解させる。 ●国会と内閣の関係をつかみ、議院内閣制の意義について考察させる。	内閣と行政機関のしくみやはたらきについて、意欲的に調べようとしている。	国会と内閣の関係をつかみ、議院内閣制の意義について考察し、自分の言葉で説明している。	内閣や議院内閣制のしくみやはたらきについて資料から読み取り、まとめている。	内閣のしくみとそのはたらきについて、身近な知識をふまえて理解している。
	2 内閣の仕事と行政のはたらき	1	●内閣の仕事と、行政にたずさわる公務員の立場と職務について理解させる。 ●行政がどのような問題をかかえ、それをどのように解決しようとしているのかについて考えさせる。	行政権の肥大にともなって生じている問題や、行政改革の具体例について意欲的に調べようとしている。	行政権の肥大にともなう問題など行政がどのような問題をかかえ、それをどのように解決しようとしているのかについて考察し、説明している。	新聞やインターネットなどを活用し、内閣総理大臣の仕事や各省の仕事について調べ、まとめている。	内閣の仕事と行政にたずさわる公務員の立場と職務について正しく理解している。

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 私たちの生活と政治 —民主政治と政治参加—	第4節 裁判所と司法権	(4)	●国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることを理解させる。 ●模擬裁判などの体験的な学習を通して、国民の司法参加の意義について考えさせるとともに、公正に問題を解決しようとする態度を育てる。	身近な事件と裁判の種類について関心をもち、新聞などを利用して調べようとしている。	裁判員制度や近年の犯罪をめぐる議論について自分の考えをまとめ、発表している。また、警察官や検察官の行為により不当に人権が侵害されないよう、多くの権利が保障されていることを具体例を通して考えている。	三審制のしくみや民事裁判と刑事裁判の違いについて、図から正しく読み取っている。また、裁判所が他の権力から独立していることについて、資料などから読み取りまとめている。	法や裁判の役割・しくみについて知り、その機能が十分に発揮されるには、司法権の独立が前提となっていることを理解している。また、裁判所は違憲立法審査権により法律をチェックする機能をもっていることを具体的な裁判の事例を通して理解している。
	1 裁判所の役割と司法権の独立	1	●生活上のトラブルや犯罪を公正に裁くため、司法権をもつ裁判所が独立した立場におかれている意義について考察できるようにする。 ●司法の機能が十分に発揮されるには、司法権の独立が前提となっていることを理解させる。	司法権とはどのようなもので、国会や内閣とはどのように違っているかに関心を持っている。	生活上のトラブルや犯罪を公正に裁くため、司法権をもつ裁判所が独立した立場におかれている意義について考察している。	憲法の「司法」の部分を参考に、公正な裁判が行われるよう司法の独立のしくみがとられていることを読み取ってまとめている。	司法の機能が十分に発揮されるには、司法権の独立が前提となっていることを正しく理解している。
	2 裁判のしくみ	1	●裁判所のしくみや裁判の概要について知り、国民の権利が保障されていることを理解させる。 ●身近な事件と裁判の種類について関心をもち、新聞などを利用して調べることができる。	身近な事件と裁判の種類について関心をもち、新聞などを利用して調べようとしている。	警察官・検察官の行為により不当に人権が侵害されないよう、多くの権利が保障されていることを具体的な例を通して考え、発表している。	身近な事件と裁判の種類について関心をもち、新聞やインターネットなどを利用して調べ、まとめている。	裁判所のしくみや裁判の概要について知り、国民の権利が保障されていることを理解している。
	3 司法への参加と人権の保障	1	●裁判に関してさまざまな人権が保障されていることを憲法の条文との関係で調べさせる。 ●裁判員制度の意義と大まかな制度の流れについて理解させる。	国民の司法参加の広がりについて、興味や関心をもって、話し合いに参加したり、意見に耳を傾けている。	被疑者の人権、被害者の人権、双方に配慮する必要性を、憲法の条文との関係から考察している。	教科書の資料や裁判所のウェブサイトをもとに、司法制度の現状やこれからの課題について情報を収集し、必要性和問題点を整理できている。	裁判員制度の意義と大まかな制度の流れについて正しく理解している。
	【やってみよう】 裁判員になって判決を考えよう	1	●裁判員制度についての知識を深め、裁判員として大切なことを理解させる。 ●国民の司法参加に関心を高め、国民の一人としてどのように司法制度にかかわっていけばよいか、自分なりの意見をもつことができる。	裁判員裁判の模擬裁判を通して、司法や裁判員制度についての関心を高めることができる。	模擬裁判を基に、他者と意見交換を行うことにより、事象を多面的・多角的に考察することができる。	模擬裁判を基に、事件の事実を一つひとつ合理的に吟味できる。	刑事裁判と裁判員制度のしくみや意義を理解することができる。
第5節 地方自治と住民	(5)	●地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治のしくみについて理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。	自分たちが住む地域社会への関心をもち、意欲的にその解決法を考えようとしている。また、住民の一人として、地方自治の発展に寄与しようとする自治意識の基礎を育てている。	地方自治が直接民主制の手法を導入している理由について、具体的な事例や制度に基づいて考察している。また、地方がかかえる課題や主権者としての政治参加のあり方について、考察している。	調査や見学活動などを通して、地方の政治について具体的に理解するとともに、発表や討論などを通して考えを深めている。また、地方政治の課題について、さまざまな資料を収集している。	住民自治を基本とする地方自治の考え方や、地方公共団体の政治のしくみ、地方財政のしくみなどについて理解している。また、日本各地のまちづくりのようすについて概観し、理解を深めている。	
1 私たちと地方自治	1	●私たちの生活に最も近い行政組織である地方公共団体（地方自治体）の意味と役割を理解させる。 ●地方自治の精神に学び、自分たちの地域を住みやすくするため、何ができるか考えさせる。	地方自治とはなにか、また地方公共団体が行っている仕事について、身近な資料を持ち寄り意欲的に調べようとしている。	地方自治の精神に学び、自分たちの地域を住みやすくするため、何ができるか考え、自分の言葉でまとめ発表している。	自分の住んでいる地方公共団体の広報誌などをもとに、地方公共団体の仕事について情報を集め、まとめている。	地方自治とは何か、また地方公共団体とはどのような行政機関か、具体例をもとに理解している。	

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 私たちの生活と政治 —民主政治と政治参加—	2 地方公共団体の政治のしくみ	1	●地方公共団体のしくみと役割、また地方財政について理解させる。	地方公共団体のしくみについて関心を持ち、地方公共団体が行っている仕事と財政について、身近な資料をもとに意欲的に調べようとしている。	地方公共団体について調べ、財政がどのようになっているかを考察している。	地方公共団体の政治のしくみやその役割について情報を集め、まとめている。	地方公共団体のしくみと役割について、正しく理解している。
	3 私たちのまちづくり	1	●現在行われている各地域でのさまざまな取り組みをふまえ、活力ある地域をつくるために自分たちにできる活動を考える。 ●これからの時代に求められる地域のあり方と、地域の課題について考える。	身近な地域づくりに関心を持ち、さまざまな取り組みについて調べたり、自らが参加したりしようとしている。	まちづくりや村おこしの実際について、多面的・多角的に考察し、自分の考えを発表している。	まちづくりや村おこしについて、写真資料やコラムを参考に、理解している。	各地の地方公共団体の特色あるさまざまな取り組みを、正しく理解している。
	【やってみよう】 観光資源を探そう	2	●これからの時代に求められる地域のあり方と、そのために解決が求められる課題について考えさせる。	活力ある地域をつくるために、自分たちにできることは何かを意欲的に考えようとしている。	これからの地域社会の発展に向けて自分たちにもできることを考え、自分の言葉で発表している。	「地域おこしの例」について、インターネットなどを利用して調べている。	まちづくりや村おこしが、地域の特色を生かした視点から行われていることを、教科書や各資料をもとに理解している。
第4章 私たちの生活と経済	経済の入り口	1	●今日の経済活動に関する課題について着目して、自ら考えようとする態度を育成する。 ●経済に関するさまざまな事柄や課題について、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方と関連付けて考察する。	今日の経済活動に関する課題について着目して、興味・関心を高めながら考えることができる。	経済に関するさまざまな事柄や課題について、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方と関連付けて考察できる。	漫画などから経済に関するさまざまな事柄や課題について、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方と関連付けることができる。	これから学習する累進課税制度や生活保護をはじめとする社会保障制度などの知識と経済との関連性に気づくことができる。
	第1節 消費と経済	(4)	●経済の基本的な概念を理解させる。 ●身近な消費生活を通して、経済活動や産業構造を理解させる。 ●消費者問題と消費者保護のための法・制度を理解させる。	身近な消費生活を通して、経済活動や産業構造について関心をもつことができる。また、身近な消費者問題について関心をもつことができる。	経済活動に関する事象を多角的にとらえ、身近な事例から経済について考えることができる。	消費生活や経済活動に関する資料を読み取り、それぞれの課題について図やグラフなどにまとめることができる。	消費生活を中心にして、経済活動が生活のための手段であり、人々の生活の維持・向上のためにあるという経済活動の意義を理解することができる。
	1 経済活動と経済成長	1	●経済の基本的な概念である生産・消費・財・サービスなどを理解させ、「生産・流通・消費を中心とする人間の活動が経済である」ということの意味を理解させる。 ●国の経済規模の指標であるGDPについて理解を深めさせる。	身近な生活と経済活動のかかわりに関心をもつことができる。	個人や社会が必要とする財やサービスを生産し、消費することにより、人間の生活を維持・向上させているという経済活動の意義について考えることができる。	各国のGDPのグラフを活用し、国の経済力の比較や、近年経済成長が著しい国家などに着目できる。	財・サービスや生産・流通・消費といった経済活動の基本的な概念を理解することができる。
2 経済の発展と産業構造の変化	1	●戦後、日本がめざましい経済発展を遂げたことを経済成長率の推移から理解させる。 ●産業の分類と、それに基づく産業構造の変化について理解させる。	日本経済の歩みについて、経済成長率の推移を通して、関心をもつことができる。身の回りの職業の延長にある産業について、第一次～第三次産業という枠組みでとらえることに興味を持つことができる。	日本経済の歩みについて、経済成長率の推移を通して、考えることができる。経済のサービス化について、巨視的に考えることができる。	日本経済の歩みを調べる際、経済成長率の推移を活用することができる。日本の産業構造の変化を、グラフを活用して、読み取ることができる。	経済成長率の推移から、日本経済の歩みを理解することができる。日本が世界に誇る技術や、先進国でみられる現象である経済のサービス化はどのようなものであるかについて、理解を深めることができる。	

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 私たちの生活と経済	3 消費と家計	1	●家計の所得の種類や支出について理解させる。 ●貯蓄の目的や各国別・世代別の貯蓄について理解を深めさせる。	日本の貯蓄率の変化の原因について、積極的に考えようとすることができる。	消費と貯蓄のバランスについて、自身の問題として考えることができる。	貯蓄率に関する資料を活用し、貯蓄の目的や貯蓄率の変化の原因を読み取ることができる。	家計の所得・支出の種類やエンゲル係数について、理解を深めることができる。
	4 消費者の権利と保護	1	●消費者主権から、消費者問題を理解させる。 ●クーリング・オフの制度など、わが国の消費者保護に対する取り組みを理解させる。 ●持続可能な社会の形成に果たす消費者の役割を理解させる。	消費者問題に対して、現在または将来の自分に起こりうる問題として、積極的に学習することができる。また、公正かつ持続可能な社会の形成のために、何をすべきかを、積極的に学習することができる。	行政などの権利保護に頼るだけでなく、日頃から主体的な消費行動を心がけることの重要性に気づくことができる。また、公正かつ持続可能な社会の形成のために、消費者が果たす役割に気づくことができる。	消費者問題に関する新聞記事などを活用し、現代の消費者問題にはどのようなものがあるかを調べることができる。	現代社会で起こっている消費者問題に対して知識を深めることができる。また、消費者の権利を保護するために行われている活動や、施策・法制について理解することができる。
	第2節 生産と労働	(7)	●流通・生産における企業の役割を理解させる。 ●働くことの意義と権利について理解させる。	企業の経済活動について、前節で学習した消費活動をふまえて積極的に学習することができる。また、企業の社会貢献活動や労働者の権利について意欲的に調べようとするすることができる。	企業が社会で果たすべき役割や、雇用問題について、巨視的に考えることができる。	統計資料などを用いて、具体的な企業の経済活動について調べることができる。また、憲法・法律の条文から、労働者の権利について読み取ることができる。	現代の生産のしくみをはじめ、わが国の経済のようすについて理解することができる。また、労働者の権利について理解を深めることができる。
	1 流通のしくみ	1	●流通のしくみと意義、流通に携わる商業や企業の役割を理解させる。 ●より豊かな生活を消費者へ提供しようとする生産者・企業側の努力により、流通の合理化をはじめとする流通機構が変化してきたようすに気づかせる。	流通や商業が私たちの消費生活を豊かにしているという視点に気づくことができる。	小売業の多様化、輸送の革新、情報化の進展にともなう流通機構の変化のようすを考察することから、私たち消費者のより豊かな生活のあり方について考えることができる。	流通についての各種の資料から、さまざまな流通経路、流通機構の変化、及び流通の役割などについてとらえることができる。	流通及び商業に対する知識を深め、私たちの生活における流通・商業の意義について理解することができる。
	2 企業の種類と役割	1	●企業には公企業と私企業があることに気づかせ、公企業の役割と私企業の代表である株式会社の特色を理解させる。 ●企業の活動がおよぼす社会的影響を確認し、人は労働によって知識や経験を身につけていくことを理解させる。	企業の活動が社会にもたらす影響について積極的に考えることができる。	社会における公企業と私企業の必要性を考えた上で、公企業の民営化における長所と短所について考えることができる。	大企業と中小企業の割合などの資料を活用して、日本の企業形態の特徴などを読み取ることができる。	生産要素にもとづく生産のしくみについて理解することができる。また、企業の種類について知識を深め、公企業の役割や株式会社のしくみについて理解することができる。
	3 企業の競争	1	●企業が利潤獲得を目的に行う競争や、生産性の向上を図るために行われている活動について理解させる。 ●独占・寡占のもたらす長所・短所を考えたうえで、公正な競争の必要性を確認させる。	技術革新の具体例を調べることができる。	実際の商品を例に取り、具体的にどのような競争があるか、考えることができる。また、独占・寡占による長所・短所を考察し、グローバル化への対応を考えることができる。	国内の市場占有率などの資料を活用し、具体的な企業を調べることができる。	企業間の競争の種類や、技術革新の重要性を理解することができる。
	4 企業の責任と労働者の権利	1	●企業の社会的責任（CSR）について理解し、利潤の追求と共に企業が果たさなくてはならない社会的責任を理解させる。 ●国民の勤労の権利と義務について考え、労働環境を保護する法・制度について理解させる。	企業のCSR活動などに関心を持ち、積極的に調べることができる。また、働く人の権利と保護について、自身の問題として捉えることができる。	企業が経済活動や社会に果たしている役割について考えることができる。また、勤労が国民の権利であると共に義務であること、そのために法律や制度の適切な運用が求められていることについて考えることができる。	資料を通じて、企業の社会的責任（CSR）について、具体的な活動を含めて理解することができる。また、憲法や労働者の権利を定めた法の条文を活用し、その本質を理解することができる。	企業の社会的責任（CSR）について、正しく理解することができる。また、労働者の権利を保護する法・制度に対する知識を深めることができる。

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 私たちの生活と経済	【理解を深めよう】 企業の社会貢献  【やってみよう】 企業を訪問してみよう	2	●現代の企業が果たしている社会貢献について理解し、企業が社会で果たすべき役割について考えさせる。 ●企業訪問を通じて、実際に働く現場に触れ、働くとはどういうことなのかを体験させる。	社会貢献を行っている身近な企業について意欲的に調べようとすることができる。また、訪問する企業について、積極的に事前学習を進めることができる。	企業が社会で果たすべき役割について考えることができる。また、自身が訪問した企業で学習・経験した内容をまとめることができる。	現代の企業が、生産活動以外にも社会的に貢献していることについて、資料から読み取ることができる。また、ウェブサイトやパンフレットなどの資料を通じて、企業の具体的な業務内容を読み取ることができる。	企業が具体的にどのような形で社会貢献を果たしているかを、事例をもとに理解することができる。また、企業訪問を通じて、これまでに学習した内容の更なる理解を深めることができる。
	5 生活の格差と働く意義  【考えよう】 人は何のために働くのか	1	●従来の日本の雇用形態をふまえ、近年の労働者を取りまく環境が変化していることを理解させ、これからの雇用政策のあり方について考えさせる。 ●勤労の義務が持つ意味と、自分自身が将来社会に出て働くことの意義と役割を考えさせる。	雇用を取りまく環境の変化の原因について積極的に考えることができる。また、これからの雇用政策のあり方を自身の問題として捉えることができる。	労働環境を取りまく問題から、課題を見つけ出し解決のために考えることができる。また、正しい勤労観や職業観について考えを深めることができる。	労働環境を取りまく問題を、新聞記事などから、収集することができる。	日本の雇用形態が変化していることや、多様な働き方の一つとしてワーク・ライフ・バランスなどを求める動きがあることを理解することができる。
	第3節 市場経済と金融	(5)	●社会主義経済と比較しながら、資本主義経済の特徴を理解させる。 ●市場経済における価格変動のしくみ、経済における金融機関の果たしている役割、為替制度について理解させる。	市場経済において価格が決定されるしくみや、金融機関の役割、為替相場について関心をもつことができる。	需給バランスによる価格の決定や、金融機関による経済活動などを通して、市場経済の全体を把握することができる。	国家や世界単位での経済活動のしくみを、統計資料などを活用し、図やグラフなどにまとめて理解することができる。	市場経済における価格決定のプロセスや、金融のしくみについて理解することができる。
	1 市場経済とは	1	●自由主義経済における市場の役割と、市場の自動調節機能、市場経済における価格の変動の果たす役割を理解させる。 ●資本主義経済の特徴を理解させる。また社会主義経済との比較も確認させる。	価格の変動の要因など、身近な生活の具体例に照らし合わせて関心を持つことができる。	計画経済との比較を通じて、市場経済の長所と短所を考えることができる。	世界の国々がとっている経済体制について、資料などを積極的に調べることができる。	市場経済の特徴や、計画経済との比較について理解することができる。また、企業が拡大再生産を通じて成長することによって、雇用の創出など社会に大きな影響をもたらすことを理解できる。
	2 市場経済と価格	1	●市場における需要と供給について知識を深め、需要量や供給量の増減によって市場価格がどのように変化するかを理解させる。 ●公共料金について、その特性を知り、価格決定のしくみを理解させる。	需要曲線と供給曲線を用いて、均衡価格が決定されるしくみや、価格が変動するしくみを積極的に考えることができる。	需要と供給のバランスにより成り立つ市場経済の基本的な考え方について、身近で具体的な事例を通してとらえることができる。	価格の変化と需要・供給との関係について、グラフを読み取ることができる。また、グラフを活用して説明することができる。	市場経済における価格決定のしくみを理解することができる。また、公共料金の持つ特性について知り、その価格決定のプロセスの意義を理解できる。
	3 金融のはたらき	1	●金融のしくみには、直接金融と間接金融があることを理解し、金融の働きを考えさせる。 ●金融機関の代表である銀行のしくみやはたらきから、金融の役割について理解させる。	私たちの家計の貯蓄などが、金融機関を通して経済活動に活かされていることについて関心をもつことができる。	経済活動における金融機関の存在意義について考えることができる。	直接金融・間接金融の違いについて資料の読み取りから理解し、説明することができる。	金融のしくみや役割、銀行のはたらきについて理解することができる。
	4 日本銀行のはたらき	1	●中央銀行としての日本銀行の仕事の内容について理解させる。	日本銀行が経済活動に密接にかかわりながら果たしている役割について、関心をもつことができる。	経済活動における日本銀行の存在意義について考えることができる。	日本銀行の金融政策について、資料の読み取りから理解し、説明することができる。	中央銀行としての日本銀行の仕事とその内容について理解することができる。

章	学習内容	配当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 私たちの生活と経済	5 国際金融	1	●私たちの生活が国際的な経済活動に結び付いていることに関心をもたせる。 ●円高・円安が貿易や生活にあたる影響や、経済のグローバル化における為替市場の役割を理解させる。	為替相場など、国際金融に関するニュースや記事などに積極的に触れることができる。	経済のグローバル化や為替相場の変動が、私たちの日々の生活にどのような影響を与えているかを考えることができる。	図などから円高・円安がもたらす具体的な影響を理解することができる。	円高・円安のしくみと、その影響について理解することができる。また、為替市場の役割について理解することができる。
	第4節 私たちの生活と財政	(3)	●市場経済における政府の役割を理解し、租税・財政についての理解を深めさせる。 ●国及び地方公共団体の財政赤字や、財政のあり方について理解を深めさせる。	日本の税制や財政の現状、景気の変動について関心を持ち、自分自身にもかかわる問題として考えることができる。	日本の財政問題について、租税制度もふまえた上で、望ましい財政のあり方について考えることができる。	租税・財政に関する新聞記事や資料を活用し、日本のかかえる財政面での課題を読み取ることができる。	政府による財政政策、中央銀行による金融政策の必要性とその影響について理解を深めることができる。
	1 政府の仕事	1	●社会資本が、国や地域の経済活動を円滑に進めるために必要な基礎的施設として、直接的・間接的に経済の発展に役立っていることを理解させる。 ●将来世代に引き継ぐためのインフラ整備や、国民を守るため防災・減災に関する政策を進める必要性を理解する。	企業によっては供給されにくい公共財について関心をもつことができる。また、それを行う政府の仕事に関心を持ち、安全でより良い社会の実現のためのインフラ等の整備について積極的に考えることができる。	日本の国土が抱える特性を踏まえ、防災・減災に取り組んでいくためには、どのようなことが考えられるかについて、具体的内容を取り上げることにより、考察することができる。	インフラ・防災・減災に関する新聞記事などを収集し比較して、有用な資料・データとして活用できる。	市場のはたらきの限界をふまえ、政府による社会資本の整備の重要性を理解することができる。また、インフラ整備、防災・減災について理解することができる。
	2 財政と租税	1	●租税の大まかなしくみやその特徴について、統計資料などを有効に活用しながら理解させる。 ●財政赤字の原因について理解した上で、望ましい財政のあり方を考えさせる。 ●税収不足を補うために行われる財政投融资や公債の発行のしくみを理解させる。	将来世代を含めた公平な税負担の実現のための税制について、積極的に考えようとしている。また、望ましい財政のあり方について、現状をふまえ考えようとしている。	財政の歳入・歳出における内容を具体的に取り上げることにより、財政のはたらきについて考察することができる。日本の債務残高の現状、特に、財政赤字に関心を持ち、自身の将来に関わるものとして考えることができる。	国税と地方税、直接税と間接税を比較して表にまとめ、それぞれの税の特色をとらえることができる。また、財政に関する資料を活用し、財政が抱える問題を読み取ることができる。	租税の種類や課税方法の違いを理解し、それぞれの長所・短所を理解することができる。また、公債発行・財政投融资の目的やしくみを理解することができる。
	3 景気の変動と経済政策	1	●好景気と不景気の状態を理解し、景気の変動（循環）のしくみを理解させる。 ●経済の安定のため、政府が行う財政政策および日本銀行が行う金融政策について理解させる。	景気や物価の変動が私たちの生活にどのような影響を与えるかについて関心を持つことができる。また、好景気・不景気において必要な政策が、どのようなものであるかを積極的に考えることができる。	資本主義経済の特徴の一つである景気の変動について考察することができる。	財政政策・金融政策に関する資料を通じて、具体的な政策を理解することができる。	景気循環のしくみを理解し、財政政策と金融政策の必要性と、その効果について理解することができる。
	第5節 私たちの生活と福祉	(4)	●日本の社会保障制度の課題を財政面と少子高齢化の面から考え、将来のあり方について考えさせる。 ●公害問題をはじめとする環境問題に理解を深め、循環型社会や環境保護への取り組みを理解させる。	日本の社会保障制度の現状と課題について、自身に結びつけて考えようとする。また、環境保全の重要性を意識することができる。	日本の社会保障制度の現状と将来について、多角的な視点から考えることができる。また、一人一人の意識が社会全体の環境保全へつながることを理解できる。	財政などの統計を用いて日本の社会保障制度の課題を読み取ることができる。また、身近な環境保全への取り組みについて調べることができる。	日本の社会保障制度のしくみを理解し、将来的な課題について考えることができる。また、環境保全への取り組みを歴史的な歩みを参考にしながら理解することができる。
	1 社会保障のしくみ	1	●日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解させる。 ●社会保険、特に健康保険と年金保険のしくみについて理解させる。	国民相互の助け合いの精神に支えられているわが国の社会保障制度の考え方について関心を持つことができる。	現代社会における社会保障制度の意義について考えることができる。	国民年金のしくみを示した図を通して、日本の公的年金制度の概要を理解することができる。	日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の四つの柱の基本的な内容について理解できる。また、健康保険・年金保険のしくみについて、財政的な見地を含め理解することができる。

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 私たちの生活と経済	2 福祉の充実と課題	1	●少子高齢社会の進行にともなう日本の社会保障制度の課題について理解させ、これからの日本の社会保障制度のあり方を、他国の例を参考にしながら考えさせる。 ●年金制度の財政面での問題を理解させ、これからの年金制度のあり方について考えさせる。	少子高齢化が社会保障制度に与える影響について、積極的に考えることができる。	これからの日本の社会保障制度のあり方について、財源の問題をふまえながら考えることができる。	社会保障に関する資料を通じて、財政的な見地から日本の社会保障制度が抱える問題を理解することができる。	日本の社会保障制度における財政面での現状や課題について、理解することができる。また、他の先進国の社会保障制度との比較から、日本の社会保障制度についての理解を深めることができる。
	3 環境の保全	1	●高度経済成長期における日本の公害問題を理解し、日本の環境行政の歩みを確認させる。 ●循環型社会のしくみをとおして、環境保護のための三つのRを理解させる。	環境保護に対する行政や企業の取り組みを通じて、身の回りのことさらに関心を持つことができる。また、自分達が実践できる環境保護について考えることができる。	行政や企業、地域社会、家庭など社会全体で環境を守るための取り組みを実行していくことが、人類の共有財産としての地球環境の保護につながるということを考えらえる。	グラフや図、資料の読み取りをもとに、環境を守るための取り組みの現状や課題について説明することができる。	日本の環境行政の歩みと、循環型社会について理解することができる。また、企業を中心とした民間における環境保護の取り組みについて理解することができる。
	4 日本経済のこれから	1	●日本経済の成長の鍵となる技術力や日本人らしい商品開発、海外で評価される日本文化について考えさせる。 ●自分たちが日本経済のこれからの担っていくということを自覚させる。	日本経済のこれからの考えるということは、自分自身のこれからの考えることと不可分であるということを実感できる。	将来の日本経済を牽引する可能性を持つ日本の技術や文化について、考察することができる。	資料を通じて、日本経済成長の可能性を持つ技術や資源などについて調べることができる。	日本経済のこれからの支える技術や文化について理解を深めることができる。また、世界で評価されている日本文化についての理解を深めることができる。
第5章 私たちと国際社会の課題	国際社会の入り口	1	●国際社会に対する理解を深めさせ、国際社会における我が国の役割について考察させる。 ●よりよい社会を築いていくために解決しなければならないさまざまな課題について探究し、自らの考えをまとめさせる。	国際社会における課題を捉え、わが国の役割について、興味・関心を高めながら考えることができる。	よりよい社会を築いていくために解決しなければならないさまざまな課題について探究し、主体的に考えようとしている。	ランキングの方法を理解し、現代社会の課題を捉えて、自らが主体的に考えようとしている。	現代社会の課題を考察する中で、自らが知っている知識を活用して、理解に努めようとしている。
	第1節 国家と国際社会	(11)	●国家や国際社会とのかかわりを認識させ、自国への愛情と誇りを涵養するとともに、世界平和の実現に向けた国際的な取り組みについて理解させる。 ●国際的な相互依存関係の深まりのなかで、国際社会における日本の役割や国際貢献のあり方について考えさせる。	世界平和の維持に向けた国際連合や国際社会の協力関係に関心をもち、わが国の役割について意欲的に考えていこうとしている。また、わが国の外交課題、防衛問題、国際貢献のあり方などに関心をもち、主体的に考えていこうとしている。	地域紛争の多発や核兵器の拡散など、冷戦後の世界情勢の変化をふまえ、世界平和に向けた国際連合や国際社会の取り組みの意義や課題について考えることができる。また、ODAや自衛隊の海外派遣などを通して、わが国の国際貢献のあり方について考えることができる。	世界の紛争や核拡散、わが国の外交や防衛問題、国際貢献などに関する情報を収集し、関心のある課題について説明したり、追究することができる。また、条約、地図、統計、写真などの資料を使って説明したり、自分の考えをまとめることができる。	主権国家の「主権」の意味、そのおおよぶ範囲、わが国の領土問題についての現状と課題を理解できる。また、わが国の外交、防衛、国際貢献などの現状についての基本的知識を身につけることができる。
	1 世界の中の日本人として	1	●日本と国際社会との関係について学び、世界とのつながりの中で私たちが生活していることを実感させる。 ●国際関係が従来の国と国との外交の枠を越えつつあり、多様な担い手が出現していることを理解させる。	世界とのつながりの中で私たちが生活していることを実感し、国際社会の動向に関心を持つことができる。	国際社会がかかえるさまざまな問題について、国家の枠を超えて、国際組織や個人に及んで解決に向けての活動がなされていることに気づき、自らが主体的に考えようとしている。	国際会議や海外支援活動などに関する資料から、日本と国際社会との関係について考察し、現代社会の課題を捉え、自らが主体的に考えようとしている。	国際関係の担い手の広がりや、国際社会がかかえるさまざまな課題の存在を理解できる。
	2 国家とは何か	1	●国家の成立要素である「主権」、「領域」とは何かを理解させる。 ●日本の領土をめぐる問題について、日本の立場を理解し、粘り強く解決しなければならないことに気づかせる。	日本の領土をめぐる問題について、それぞれの領土が日本固有のものであり、問題の解決に向けた外交的努力の重要性に気づくことができる。	主権国家の相互尊重について、日本の領土をめぐる問題を通して考えることができる。	日本の領土をめぐる問題について、資料や新聞記事などを活用して説明することができる。	主権や領域について、それらの意味を適切に理解し、日本が直面している問題に結び付けた知識を定着できる。

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第5章 私たちと国際社会の課題	【理解を深めよう】領土を取り戻す、守るということ	1	●日本固有の領土である北方領土や竹島に関して、未解決の問題が残されていることについて理解させる。 ●尖閣諸島をめぐる情勢について、日本の正当な立場を理解させ、領有権の問題が存在していないことを理解させる。	わが国の領土をめぐる問題などについて、それぞれの領土がわが国固有のものであり、問題の解決に向けた外交的努力の重要性に気づくことができる。	わが国が平和的な手段による解決に向けて努力していることについて考察し、自分の考えをまとめることができる。	北方領土、竹島、尖閣諸島に関する問題やできごとについて、資料や新聞記事などを活用して説明することができる。	北方領土、竹島、尖閣諸島に関する問題やできごとについて、それらを考察するための知識を定着できる。
	3 国家と私たち	1	●日本では法律によって、「日章旗」が国旗であり、「君が代」が国歌であることを理解させる。 ●日本だけでなく諸外国の国旗および国歌を尊重する態度を育てるようにする。	国旗・国歌の大切さに気づき、自国や他国の国旗・国歌に敬意を払うことができる。	日本だけでなく、諸外国の国旗及び国歌の特徴を捉え、それらをどのように尊重すべきか、考察できる。	各国の国旗・国歌の特徴を捉え、国際社会でどのようにそれらへの敬意を表すかが説明できる。	諸外国の国旗及び国歌を踏まえながら、わが国では、国旗・国歌法において「日章旗」が国旗であり、「君が代」が国歌であると定められていることを理解できる。
	【理解を深めよう】北朝鮮による日本人拉致事件	1	●日本の主権が侵害される事件をもとに、主権の侵害とはどのようなことであるか理解させる。 ●北朝鮮による日本人拉致事件を通して、主権や人権、家族の絆について考察させる。	拉致問題が現在も進行中の人権侵害であることを理解し、その解決が国民的課題であることに気づき、強い問題意識をいだくことができる。	事例を通して、主権や人権、家族の絆とは何か、などを考察することができる。	日本地図を用いて、事件の発生した場所を確認し、日本の主権が著しく侵害されたことに気づくことができる。	北朝鮮による日本人拉致事件について、正しい知識を得て、課題と結びつけることができる。
	4 国際連合のはたらき	1	●世界平和の実現には、国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させる。 ●国際的な相互依存関係が深まる中、国際連合総会や安全保障理事会などの主要組織の目的や働きを理解させる。	国際連合のしくみやはたらきに関心を持ち、国際連合におけるわが国の役割について意欲的に考えることができる。	国際連合において、わが国がどのように役割を果たしていくべきか、国連予算分担率や旧敵国条項の問題などを通して考えることができる。	図表やグラフ、資料などを読み取り、国際連合のしくみやはたらき、わが国の立場について考察できる。	国際連合の目的や働き、それらを支える組織など理解し、国際連合におけるわが国の役割を考察することに結びつけられる。
	5 世界平和の実現にむけて	1	●冷戦後の世界では、民族対立や宗教対立が表面化し、地域紛争が絶えないことを理解させる。 ●日本の安全と防衛、核兵器の脅威など世界平和に関わる問題について考察させる。	世界平和に関わる問題について考察するとともに、世界平和を確立するための熱意と態度をもてる。	日本の安全と世界の平和をいかにして実現するかを考察することができる。	さまざまな写真やグラフ、地図などを活用して、世界の紛争地域や核拡散の現状をとらえられる。	冷戦後の世界で地域紛争が多発していること、核兵器をめぐるさまざまな問題に世界が直面していること、平和の実現にむけた国際社会の取り組みについて、問題点を整理して理解できる。
	6 国際社会での協調	1	●地球規模での努力や国際協力、国際協調などが大切であることを理解させる。 ●国際社会において、国家や国際機構以外の組織が活動していることを理解させる。	国際社会において、各国が協調の精神をもって行動することが求められていることに関心をもつことができる。	現代の国際社会と自らのかわりにおいて、国際協調の精神をもって、諸問題の解決に向けて努力しなければならないことを考察できる。	独自性を活かしながら、地域的な協力関係が築かれていることを地図から読み取ることができる。	国際協力を進める諸機関や組織、地域の連帯を目的とする諸機関などを知り、相互協力が進められていることを理解できる。
	7 国際社会での日本の役割	1	●日本の国際貢献に対する関心を高め、そのあり方について主体的に考察させる。 ●国際貢献としての政府開発援助（ODA）や青年海外協力隊の派遣などを理解させる。	わが国の外交や国際貢献について関心をもつことができる。	ODAの見直しなど国際貢献のあり方の変化について、内外の情勢の変化をふまえて考察することができる。	グラフや資料の読み取りをもとに、わが国の国際貢献のあり方について考察できる。	これからの国際貢献のあり方を考察しながら、ODAなどの必要な知識を獲得できる。

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第5章 私たちと国際社会の課題	8 文化と宗教の多様性	1	●国際社会における文化や宗教の多様性について理解させる。 ●国家間の相互の協力や各国の相互理解と協力が、世界平和の実現と人類の福祉の増大にとって大切であることに気づかせる。	国際社会における文化や宗教の多様性について理解し、興味・関心を高めることができる。	文化の多様性を考察し、異文化を理解する態度が世界平和の実現にとって大切であることに気づくことができる。	地図を基に、世界には多様な宗教が存在していることに気づくことができる。	文化や宗教の多様性を考察するのに必要な、世界遺産や世界三大宗教などを理解できる。
	【理解を深めよう】 東日本大震災—国民の絆、世界の絆	1	●大災害から生命の尊重や安全について考察させる。 ●東日本大震災をもとに、日本と世界の平和と繁栄を図ることの大切さに気づかせる。	大震災を通じて、個人と社会の関係、日本と他国との関係などに関心を持って考察することができる。	事例を通して、家族の絆、地域の絆、国民の絆、世界の絆とは何か、ということ考察でき、かつ自分の言葉により表現できる。	地図や写真資料によって、震災の規模、被害の状況を理解することができる。また、写真を通して、日本を支援してくれる世界の絆を感じ取ることができる。	大震災を通じて、命の大切さを実感し、さらに自己犠牲により多くの人の命を守った人がいたことを認識できる。
	第2節 持続可能な社会をつくるために	(5)	●地球環境、資源・エネルギー、人口・食料問題の現状、要因について理解するとともに、国際社会やわが国の取り組み、課題を理解させる。 ●地球環境、資源・エネルギー、人口・食料問題の解決に関心を持ち、社会のあり方や自分の生き方について考えさせる。	地球環境を守るための努力や活動について関心を持ち、社会のあり方や自分の生き方を考え、地球の未来に責任をもつとする態度を身につけようとしている。	地球環境、資源・エネルギー、人口・食料問題の解決に向けたさまざまな取り組みの現状や課題を認識し、「持続可能な開発」の意味やその必要性について考え、自分の意見をまとめることができる。	地球環境を守る努力について、行政や企業、地域や家庭などが取り組んでいることがらについて調べたり、実態をまとめたりできる。	地球環境を守る努力の大切さを認識するとともに、循環型社会の形成に向けたさまざまな取り組みに関する基本的知識を身につける。
	1 地球規模の環境問題  【考えよう】 地球環境問題と日本	1	●地球環境問題について関心を高め、とりわけ地球温暖化防止に向けた国際社会の取り組みや課題について主体的に考えていこうとする態度を養う。	地球環境問題について関心を持ち、地球温暖化防止に向けた国際社会の取り組みや課題について、主体的に考えることができる。	地球環境問題の発生について、現代の経済活動や生活のあり方を関連づけて考えることができる。また、地球温暖化防止に向けた国際社会の課題について考えることができる。	グラフや図、資料の読み取りをもとに、地球環境問題の現状や原因、地球温暖化防止に向けた国際社会の取り組みについて把握し、説明することができる。	地球環境問題のさまざまな事例を知り、それが現代の経済活動や生活によって起こってきたことを理解するとともに、地球温暖化の防止をめざした国際社会の取り組みや課題をとらえることができる。
	2 資源・エネルギー問題	1	●資源・エネルギー問題について関心を高め、主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。 ●化石燃料に代わって、再生可能エネルギーなどの開発が行われていることを理解させるとともに、その問題点や課題について考えさせる。	資源・エネルギー問題について関心を持ち、再生可能エネルギーの普及や循環型社会の形成に向けた社会の取り組み・課題について主体的に考えていこうとしている。	資源・エネルギー問題について、現代の経済活動や生活のあり方を関連づけて考えるとともに、循環型社会の形成に向けた課題を考えることができる。	グラフや資料の読み取りをもとに、資源・エネルギー問題の現状や、省資源・省エネルギーに取り組む社会の現状、課題について説明することができる。	資源・エネルギー問題が起こってきた原因や現状を知るとともに、その解決に向けた新しいエネルギーの開発や省資源・省エネルギーなどへの取り組みを理解することができる。
	3 人口の急増と食料問題	1	●食料問題の解決に向けた国際社会やわが国の取り組みとその課題を考えさせる。 ●人口問題・食料問題について関心を高め、主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。	人口問題・食料問題について関心を持ち、その解決に向けた国際社会及びわが国の取り組みや課題について、主体的に考えることができる。	人口問題・食料問題の要因や解決に向けた課題について、発展途上国の現状や国際社会の取り組みなどと関連づけて考えることができる。	グラフや図、資料の読み取りをもとに、人口問題・食料問題の現状や課題、国際機関及びわが国の取り組みの現状や課題について、説明することができる。	人口問題・食料問題が起こってきた原因や世界の現状を知るとともに、その解決に向けた国際社会やわが国の取り組みと課題を理解することができる。
	4 持続可能な社会をめざして	1	●持続可能な社会の形成に向けた国際社会や、わが国の取り組みとその課題を考えさせる。 ●持続可能な社会の形成について関心を高め、主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。	持続可能な社会の形成について関心を持ち、国際社会及びわが国の取り組みや課題について、主体的に考えようとしている。	持続可能な社会の形成に向けた課題について、グローバル化を踏まえ、現状や国際社会の取り組みなどと関連づけて考えることができる。また、将来にわたり人類がめざすべき社会について、考え、判断し、表現することができる。	グラフや写真、資料の読み取りを関連づけ、持続可能な社会の形成に向けての現状や課題、国際社会及びわが国における取り組みの現状や課題について、説明することができる。	持続可能な社会とは、どのような社会であるのかを、グローバル化と併せて理解し、さらに、そのための国際社会やわが国の取り組みを知ることができる。

章	学習内容	担当 授業 時数	学習のねらい	評価規準			
				社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第5章 私たちが 住む 社会の課題	【考えよう】 1964年と2020年 東京 オリンピック・パラリン ピックの時代	1	●前回東京オリンピックのあった1964年と現在とで、日本社会が大きく変化したことを、さまざまな視点から調べさせる。 ●オリンピックの参加者の違いを調べることとおして、その背景にある社会の動きとの関連を考えさせる。	1964年の東京オリンピック・パラリンピックが開かれた頃の日本社会のようすを、関心を持ってとらえることができる。	1964年と2020年の東京オリンピック・パラリンピックの違いを自分の言葉で簡潔に述べるができる。また、同様に社会の変化を表現することができる。	1964年と2012年(ロンドン大会)における、オリンピックに参加する女子選手数及びその割合の違いから、社会の変化を読み取ることができる。また、経済・社会に関するグラフや資料などから、1964年と現在との社会の変化に気づくことができる。	社会の変化に応じて、オリンピック・パラリンピックも、大会の理念や参加する女子選手の割合などが変化していることを理解できる。さらに、現代社会の抱えている課題を意識することができる。
社会科の まとめ	テーマを決めてレポ ートを作成しよう	5	●社会科のまとめとして、公民分野で学習した成果の活用に加えて、地理的分野、歴史的分野の学習の成果をふまえつつ、設定された課題を探求させ、その解決の方法について自分なりの考えをまとめさせる。	身近な地域の生活やわが国の取り組みとの関連性に着目し、世界的な視野と地域的な視点に立った課題を設定することができる。また、持続可能な社会を形成するという観点から、よりよい社会を築いていくという態度で、課題解決に取り組むことができる。	社会的事象は相互に関連し合っていることに留意しながら、現代社会の事象について考え、表現し、まとめることができる。また、地理的分野や歴史的分野での学習の成果と社会的事象を関連づけたり、総合的に思考・判断し、課題解決に向けて探求することができる。	設定された課題に対して、自分とのかかわりという視点から、言語活動を活かした発表・まとめができる。また、多様な資料をもとに、科学的な探究の過程や思考の過程を論理的に表現し、まとめることができる。	対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を理解した上で、課題の探究について検討することができる。また、設定された課題にともなう社会的事象の内容を理解することができる。

※総配当授業時数の100時間に対し、96時間の授業時数を配当しました。残りの4時間は、各章末の「学習のまとめ」などに弾力的に配当してください。